



セリオ便り

十二月号

— 2024 —

12月29日～1月4日 年末年始お休み



先略、師走に「何となく多忙な気がして、今年のか
 お変わりないですか？ セリオ便りが手書きじゃありませんが、
 どうもこの年々読みにくくなってきた。パソコンの方が間違いなく誤字の
 変換も楽なところ、大部夫人の事情が笑った。心
 誠実に読んで下さる方々に対して反省と頑張る励みに
 とびつた次第です。さて今年の大河ドラマの主人公は紫式部
 でした。達筆なかな文字アップで見ると、ついで美しい筆さばりに
 見惚れてしまふ。紫式部と石山寺のエンソードが目にとまりまし
 たので書き記しておこうと思ふ。石山寺は天祥院宝元耳
 聖武天皇の勅願により、良弁僧正により開基された。
 当時は平子貴族との関係も深く、約千年前の寛弘年間
 村上天皇の皇女選子内親王が、まだ読んだことのない珍しい
 物語を祈望され、内親王の故母にあたる上東門院により
 命を受け紫式部は新しい物語りの誕生を祈念するた
 石山寺に七日間の矢張り籠もされ、時は八月十五夜、金勝山より
 差し昇る名月が琵琶湖に映え、式部の心にひとつの構想が
 浮かびました。「今宵は十五夜なりけりと思し出でて、殿上の
 御旗が赤ひくく…」源氏物語りはこのようにして書き始め
 られます。物語の想を練る式部の姿を観音の化身とする
 信仰のあふれた事も知られてくる。このく堅いストーリー
 をドラマの脚本と作中の映像が美しく感じました。この
 十二月号は気合いを入れて手作りは作らぬ。米一升の
 秋を飛ばしたもう一冊さで冬に突入するのね。寒さを対策を
 されご自愛の上お読みくださいませ。

感謝を込めて 敬具

令和六年十二月一日

松本幸子様

